

## 2013年度環境会計

【集計範囲】(株)モスフードサービス(本社、事務所及び直営店) 【対象期間】2013年4月1日～2014年3月31日  
 【参考】環境省環境会計ガイドライン(2005年版)

2013年度は、廃棄物量とコストが大幅に増加しました。商品戦略と倉庫効率化を進めた結果、倉庫廃棄物が昨年度の2.8倍となりました。さらに組織変更に伴う業務内容の見直し、配置換え等で本社の産業廃棄物のコストも大幅に増加しました。営業活動においては店舗の電気使用量が増加しました。環境マネジメントシステムの運用の中で対策を講じていますが、結果にまでは結びつきませんでした。

### 環境保全コスト

単位:千円

分類	主な取組み内容	投資額	費用額	増減額(前年比)		
				投資額	費用額	
① 事業エリア内コスト		10,937	91,526	▲ 14,944	▲ 4,479	
内訳	①-1 公害防止コスト	排水設備投資 下水道料金の支払	10,255	42,260	▲ 12,669	▲ 10,698
	①-2 地球環境保全コスト	空調機・LED照明設備投資 省電力機器保守	682	3,516	▲ 2,275	▲ 1,798
	①-3 資源循環コスト	事業系廃棄物のリサイクル及び廃棄処理	0	45,751	0	8,018
② 上・下流コスト	容器包装リサイクル協会費用	0	1,729	0	▲ 222	
③ 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用・教育・環境情報の開示	0	60,444	0	1,431	
④ 研究開発コスト	実験店舗減価償却費	0	1,289	▲ 1,650	▲ 1,220	
⑤ 社会活動コスト	コミュニケーション・社会貢献活動	0	1,268	0	▲ 87	
⑥ 環境損傷対応コスト		0	0	0	0	
⑦ その他のコスト		0	0	0	0	
合計		10,937	156,255	▲ 16,594	▲ 4,576	

(株)モスフードサービス(単体)決算数値 (2013年度)

投資額の総額	653,571	千円
研究開発費の総額※注1	31,291	千円

※注1:環境保全コストの「④研究開発コスト」は含んでおりません。

### 環境保全効果および経済効果

環境保全効果の分類	環境保全効果を表す指標					削減量 (前年比)	経済効果 (前年比) 単位:千円
	項目	単位	2012年度	2013年度			
①事業活動に投入する資源に関する効果	電気使用量[本社・事務所] ※1	◎ 千kWh	419	409	10	252	
	電気使用量[直営店] ※1	◎ 千kWh	8,668	8,908	▲ 240	▲ 6,048	
	都市ガス使用量[本社・事務所] ※2	◎ 千m <sup>3</sup>	2	2	0	▲ 5	
	都市ガス使用量[直営店] ※2	◎ 千m <sup>3</sup>	281	261	20	2,812	
	LPガス使用量[直営店] ※2	◎ 千m <sup>3</sup>	41	41	0	45	
	水道使用量[本社・事務所]	千m <sup>3</sup>	1	1	0	22	
	水道使用量[直営店]	千m <sup>3</sup>	99	101	▲ 2	▲ 713	
	空調エネルギー[本社]	◎ GJ	1,898	1,832	66	42	
	コピー用紙使用量[本社・事務所]	千枚	1,851	1,830	21	16	
	CO2排出量(◎を換算)	t-CO <sub>2</sub>	5,363	5,111	252	-	
②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	事業系一般廃棄物[本社・事務所]	t	6	6	0	▲ 25	
	倉庫廃棄物処分	t	138	387	▲ 249	▲ 9,399	
経済効果合計						▲ 13,000	

#### <CO2換算係数>

改正省エネ法の換算係数を元に作成しています。

※1 電気:(2012年度)=電力各社発表の2011年度調整前の係数、(2013年度)=電力各社発表の2012年度調整前の係数

※2 ガス:都市ガス(2012・2013年度)2.23kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>

:LPガス(2012・2013年度)3.00kg-CO<sub>2</sub>/kg \*重量換算0.502千m<sup>3</sup>/t \*単位発熱量(2012・2013年度)50.8MJ/kg

#### 環境会計作成にあたって

- ・環境保全コストの増減額の▲は、減少額を表しています。
- ・環境保全効果および経済効果の▲は、共に増加量、費用増加額を表しています。
- ・複合コストの計上は簡便な基準による按分集計を採用しています。